

第6回 東近江市市民協働推進委員会 要点まとめ

開催日時 平成24年12月20日(木) 19:30~21:30

開催場所 東近江市役所 別館 中ホール

会議内容

これまでのワークショップで出てきた「現状・課題」をA～Sの19のカテゴリーに分類して整理をした(資料1の8～9ページ)。今回は、これが網羅的になっているか、抜けているところはないかという観点で、確認をしていく。

A) 市民の意識

B) 市職員の意識 について

- ・協働という言葉は、一般市民にはあまり身近ではないので、それを身近に感じるようなきっかけが必要。
- ・「市職員の意識」に否定的な意見が多いが、私の周りには、熱心にかかわってくれる職員が多い。
- ・市職員の中に真剣にまちのことを考えている人たちがいることが伝わっていない。
- ・職員で一くりにすることに無理がある。職員というより人。住民であろうが、職員であろうが、前向きに取り組んでいる人はやっている。
- ・「市職員の意識」について、地域に入ったときの職員の問題ばかり論じられているが、協働ということに対して、市役所の組織の中でシステムとしてそういう機能が働いているのか、そういう意識を持って仕事をしているのかということのほうが重要ではないか。その点がぬけている。
- ・協働についての職員の認知度はだいぶ上がってきている。しかし、大事なところは分かるけれど、どうやっていけばいいかが分からないのではないか。
- ・協働型に変えていくための業務支援みたいなものがないと、こういう個人攻撃型の指摘になってしまう。
- ・本庁で勤めるようになり、地域とか地元の情報が聞こえてこなくなった。
- ・合併後に、職員が地域が見えづらくなってきていると感じているのは、少なくとも良いことではないので、合併後の暮らしの在り方とか、役所の仕事の在り方、住民と市役所の距離感などについて、課題として入れ込んで議論をしたほうがいいのかもかもしれない。
- ・課題には、行政側の問題意識から出てくる課題や、生活している市民の中から出てくる課題など、いろいろなレベルの課題があるが、そのような課題の中で、協働のテーマとしてどれをどうやって浮かび上がらせるのか、その作業はどこがするのかというところが、ここの中にはない。

C) 情報収集・提供

D) 情報の共有 について

- ・話が戻るかもしれないが、主体の中で、市民と市職員と分けているが、事業者が欠落し

ている。

- ・市の職員、県の職員などの行政に勤めておられる方は、節税の方法や保育所に入りやすい方法などをかなりよく知っているが、そういう情報を市民に発信することを検討してもらいたい。
- ・情報の共有については、職員や行政からの情報が主に書かれているが、住民側からの情報提供も絶対に必要。
- ・市民の中でのいろいろな知恵や情報の蓄積については、これまではそのコミュニティが蓄積していたと思うが、今後は、それをどうやって財産として蓄積していくかということも1つの課題。
- ・定年後に何かをしたいと考えている方は大勢おられるので、ボランティアなどの情報を集約している相談窓口をつくるなどすれば、そういう方が活躍できるようになるのでは。
- ・高齢者には紙ベースのチラシで、若い方にはネットでというように、対象者に応じた情報提供をしないと、必要な情報が必要な方に届かない。
- ・情報の提供について、先ほど、協働するためにはテーマがいるという意見があったが、そのテーマについて情報を発信し、それをみんながキャッチするということが重要。
- ・住民からの情報も共有しながら、行政からも情報を発信することで協働につなげていけるのではないか。
- ・人の募集のようなレベルの情報のほかに、協働という本質的なところで、何かの問題に気付いた人たちが、それに関する専門的な情報にアクセスしやすい環境をつくるということも大事。
- ・東近江市は、ケーブルテレビ、地域の新聞、まちづくりネットのポータルサイトをはじめとして、いろいろな形で市民が情報にアクセスするチャンスが多いが、その中で必要な情報を見付け出せないということが課題。
- ・それぞれの情報にアクセスした人同士でつながれるような仕組みができるといいのではないか。

E) 市民と行政の相互理解

F) 市民団体と市の連携強化

G) 市民団体の交流推進 について

- ・商工会と市の連携は薄い。独自でやっているところがほとんどであり、かつ、対象地域も広いので、連携するとしても県と連携することが多い。
- ・民同士の連携、協働ということも非常に大事。例えば、同じ業種の人同士が組んで、まちのにぎわいをつくるために連携するということは自然と行われており、それはまちにとっても非常に大事な動きになっている。
- ・民同士の協働について、事業者が何をしているのかとか、何を目指しているのかという部分はなかなか理解してもらえないのも課題だと思う。
- ・東近江市がトータルとしてどういうまちづくりをするのか。それにより、いろいろな団体や市民がもっと関わっていくようなものも出てくるのではないかと思う。
- ・顔の見える関係が生まれると、店を選ぶときにもチェーン店ではなく、そういう関係ができた店を選ぶというような流れにもつながるのではないか。

- ・商工会議所の加入者事業者の約4割が、後継者がいないというのが現状。それだけの事業所がつぶれてしまうと数千人規模の雇用が失われることになる。
- ・商工会では、今、「三方よし商品券」などの取り組みがされている。それを使ってもらえばお金が外に流れない。それも民と市の協働だと思う。

L) 地域性・地域にある資源

S) 地域コミュニティの強化 について

- ・東近江市は、若い人たちがなかなか地元に残ろうとせず外に出て行ってしまふ。
- ・生徒たちが行きたくなくなるようなユニークな大学とか、若い人が地元に残りたいと思えるような企業がもっとあるといい。
- ・びわこ学院大学が地域のボランティアの支援等の取り組みをしている。
- ・八日市南高校は、自分たちで作った農産物や花の苗、卵などの販売を行うなど、地域に密着して頑張っている。
- ・まち協はコミュニティセンターにいつも出入りしており、そこから高校の先生などともつながりができてくる。
- ・五個荘では、地域のイベントに企業なども参加してもらっている。
- ・大学と地域の連携について、県立大学が今年から域学連携ということで、茶とチャレンジャーをもちって「政所茶レン茶ー」という政所茶を復活させる取り組みをしている。
- ・資源については、東近江市は森林が6割を占めているが、その活用が十分にはされていないと思う。水田が多いことも、資源になっていると思う。
- ・図書館が7館あることも東近江市の大きな特長。
- ・山間部はシカやイノシシ、サルなどが多いが、アカジゾがそのような獣害につよい作物ということで、休耕田などを活用して栽培されている。
- ・今、収入ということと別の次元で、食べ物ということを真剣に考えて農をやりたいということで新規就農している若者は増えてきている。特に都市部周辺の農業ができる所は人気がある。そういうことと考え合わせると、いろいろな可能性が見えてくる。
- ・農業をやっている人も、専業ではなく兼業が多いので、いろいろな職種の人がいて協力できるという面もある。
- ・森林の資源について、山の持ち主は高齢者が多く、管理ができなくなっており、荒れている所が多くある。次の世代でも生かしていけるように、至急方策を考えなければならないと思う。
- ・若者や中学生の意見を聞いていると、自分の住んでいる地域が好きという意見が多くあった。現実問題として、働く場が地域にないという問題はあるが、自分の地域に愛着を持っている人が多いというのは東近江市の強みだと思う。それが、地域活動への参加とか、協働にもつながるのではないかと思う。
- ・若い人の新規就農という点では、東近江市はアクセスも良く、新たに来る方にとっても住みやすい所ではないかと思う。また、そういう新たに来た方の目線で見てもらうと、新たな魅力なども見つかるのではないかと思う。そういう可能性のある地域なので、その辺りをもっとPRするなどして、さらに可能性を広げるといいと思う。
- ・何かやりたいという人たちがいて、一方で、埋もれている資源もあるので、例えば、高

齡化を逆手にとって、資源として活用していくということなどは、協働の分野ではとても重要になる。明るい高齢化みたいなことが実現すれば、高齢者もまちの財産となり得る。

今後の方向性について（次回までの宿題）

次回以降の進め方については、今日の議論を踏まえて検討したい。

今日未着手となった、「H）団体基盤の強化 I）活動の環境づくり J）財政的支援、資金の確保 K）人材・担い手の育成 M）活動拠点の整備 N）参加の仕組みづくり O）協働の仕組みづくり Q）推進体制の整備 R）市の組織体制の整備 S）地域コミュニティの強化」については、時間の都合上飛ばしたので、これで課題が網羅できているか次回までにそれぞれチェックをお願いしたい。

もう一つ、今回は協働の原則について議論する予定をしているので、6ページにワークショップの中で出された協働のイメージやキーワードが挙げられているが、この中から特に重要だと思うものを3つ選んできてもらいたい。そして、その理由も考えてきていただきたい。それを基に議論して、東近江市としての大事なところを文章にして、「東近江市の10の約束」のような形でまとめられればと考えている。

その他

次回第7回目の会議は、2月22日（金）19：30から東庁舎A会議室で開催